

「第2次町田市福祉のまちづくり推進計画」外部評価結果まとめ

※凡例 (○：良い意見／●：問題の指摘等に関する意見／◇：その他の意見)

＜全体＞

意見	市コメント
●外部評価を実施するための資料が不足している。また、今の評価の仕組み（自己評価に対する外部評価）では、客観的な評価ができない。	望ましい外部評価が行えるよう、外部評価の方法を再検討します。
●一部の事業で市民参加の機会や市民意見の収集が不十分である。	次期計画策定において、市・市民・事業者の協働による新たな推進体制を構築します。また、協働するに当たり、市民等に対して事業の進捗状況を情報提供するため、定期的に事業の情報を公開することを検討します。

＜事業名（1）バリアフリー基本構想の進行管理事業＞

意見	市コメント
●基本構想の策定に関しては市民意見を聞く機会が設けられているが、「進行管理」という点からは市民意見を聞く機会を設けられているとは言えない。「進行管理」における市民意見の収集とは何かを考える必要があると思う。	バリアフリー基本構想の改定時は、町田市福祉のまちづくり推進協議会バリアフリー部会における協議や、市民意見募集を実施し、様々な意見の反映に努めています。なお、「進行管理」における市民意見を聴取する方策は、今回の御意見を参考に、研究してまいります。
●特定事業者から事業の進捗状況を報告してもらい、その報告に対してバリアフリー部会＋αと意見交換する場が設定できれば、「進行管理」における市民意見の聴取と反映に寄与すると考える。	
◇NPO等の団体とコラボしてみると、様々な意見や新しい気づきが得られると思う。	様々な主体と連携した取組の検討を進めます。
◇バリアフリー化については、ハード・ソフト両面での取り組みが重要と考える。心のバリアフリーへの具体的な対応（教育啓発特定事業）について検討が必要である。	次期計画において、バリアフリー基本構想に教育啓発特定事業を追加することを検討します。
●PRされていると思っているが、特にHPでは欲しい情報にたどり着くのが、健常者でもなかなか苦労する。	基本構想の策定や進行管理における広報・PRが課題であると共に、本事業以外の広報・PRについても「福祉のまちづくり推進計画」の推進事業全体の課題であると認識しています。そのため、次期計画の策定において、「福祉のまちづくり」の広報・PRを強化する取組を盛り込めるよう、検討します。
●子育て世代は新聞を取らない方が多く、広報などを見ない傾向にあるようにも思う。	

<事業名（16）市からの情報発信のバリアフリー化推進事業>

意見	市コメント
○アンケートやヒアリングを実施し、様々な人の意見を聞く努力が感じられる。	引き続き、アンケートや意識調査等を行い、市民意見の把握に取り組みます。
●わかりやすい障がいと解決方法が中心となっているのではないか。「点字や声の広報」の作成（結果）は、要望となる意見（原因）があったからだと思う。「意見がないからこのまま」ではなく、「意見を出しづらい方への対応」を結果として、「原因は何なのか・誰なのか」といったことから意見集約し施策に反映することも必要ではないか。	障がいの特性に応じた様々な方法による情報発信の方法について研究してまいります。また、市として「声なき声」に対して、いかに意見を集約できるか研究してまいります。
●「目にやさしい印刷物のコツ」の周知から一歩進めて、各部署からの印刷物がそうなっているかを確認すべきではないか。	福祉総務課では「印刷物等のユニバーサルデザインルールブック」を作成し、庁内に周知・啓発しています。今後は取組を更に一歩進めるため、各自や各部署においてセルフチェックできる「印刷物等におけるユニバーサルデザインのチェックリスト」のルールブックへの追加や、各部署が作成した文書の好事例を一部抽出しルールブックへの追加等を検討します。
●会議での発言であったと記憶しているが、「広報紙の配布方法の変更について周知が行き届いていない側面があるかもしれない」という視点での対応をお願いします。	現在は、広報紙（年数回）や町田市ホームページ、メール配信でのご案内のほか、広報課で作成する紙媒体でのご案内をしています。また、年1回自治会・町内会にお知らせの掲示を依頼したり、市内を走るタクシー車内広告、駅に設置している広報紙配布ラックへの掲出などで周知しています。今後、これまで以上に周知方法を拡大してまいります。
●WEB を重視した情報発信について、ICT を使えない人も多い等の問題を指摘する声が他の自治体の会議でも多くあがるようになってきた。異なる媒体による同等の情報提供を意識する必要があり、それを継続的に実施することが求められていると感じる。	情報発信する各種媒体の特性を活かしつつ、媒体による情報量に差が生じないように努めます。

<事業名（23）心のバリアフリー、ユニバーサルデザインの普及啓発事業>

意見	市コメント
◇特に子育て世代の意見がわからないので、将来を見据えて子育て世代、もっと若い世代の意見も聞いてほしい。	今後、新たに町田市メール配信サービスのアンケート機能を用いて、幅広い世代に対して心のバリアフリーに関するアンケートを実施する予定です。
●アウトカム、市民の受け止めを把握する努力が必要では？	
○「色覚バリアフリー」に関しての研修、カラーユニバーサルデザインの資料を研修に追加、オリパラのパンフレットへの助言等他部署との連携は進んでいると思う。庁内という枠を越えて町内会・自治会や民間事業者とのコラボ事業等あると良いのではないか。	現在、庁内に向けて周知・啓発している「印刷物等のユニバーサルデザインルールブック」について、市民・事業者・各種団体等に向け公開することを検討しています。本取組を事業者等と連携しながら進め、市全体としてユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。
◇ルールブックは市民にも公開した方がいいのではと思った。ホームページでは見つけにくいようだった。	
●小・中学校との連携がまだ少ないと思う。	「移動等円滑化の促進に関する基本方針」において、2025年度までに心のバリアフリーの認知度を約50%とする目標が示されており、次期計画策定において心のバリアフリーの啓発方法を再検討します。加えて、小・中学校と連携した取組となるよう検討し、更なる認知度向上につながるよう取り組みます。
●広く市民等に「心のバリアフリー」を推進している市の姿勢が認識されてはいないと思う。市の長とも言えるので、更に推進していただきたいと思う。	
●努力は感じるが、多くの人に広まっていない。	
○啓発事業としての出前講座は評価できるが、もう少し積極的、計画的に推進したほうがよいと思う。	
●連携先が庁内にとどまっており、市民への発信力が弱い。自治会・町内会や企業等、庁外との連携を深めることで「心のバリアフリー」について認識してもらい、取組のブラッシュアップにつながれると良い。	次期計画では「市・市民・事業者の協働による新たな推進体制」の構築に取り組むことで、庁外との連携を深め、「心のバリアフリー」のさらなる認知度向上につなげてまいります。